

アンケートのまとめ

講演を聴かれた感想を
何でも結構ですから記入してください。

講演「日本とモンゴルの交流

～私とモンゴルとの出会いを通して～」

- 「きっかけは『バイト代稼ぎ』だった」ということから始まった講演は、予想していたものよりも全然堅苦しくなく興味を持って聴けた。カシミヤ工場で、自分たちで機械名などの造語を作った話やモンゴルで結婚するとき手続きで様々な苦勞をした話は面白かった。
- 藁谷氏の実験の体験談を踏まえた講演は、政治や文化に至るまで詳細なもので大変興味深いものだった。
- 堅苦しくなくて良かった。
- 講師の実験に基づく話が多く興味を持って聞かせていただきました。
- モンゴルでの一般市民の生活の話などを聞いたかった。
- 経済体制が大きく変わる中で若者や庶民の生活感や町の雰囲気がよくわかり面白かった。
- 今まであまり考えなかったモンゴルの政治に関しての知識を深めることが出来て良かった。
- 製品を作ってもそれを輸出する相手国が少なく、国内需要も限られているので、国が豊かにならないと聞き、そんなモンゴルへの支援の難しさを感じた。
- 申し訳ないことですが、講師が何を伝えようとされていたのか理解できなかった。
- 一つの国の政治や経済が大きく変わっていく様子をリアルタイムに見て感じた講師の体験は素晴らしいことだと思う。
- モンゴルの歴史や文化を知る意味で大変勉強になりました。
- 藁谷さんの講演を拝聴して、歴史の教科書に載っていることを、その時代に、その場所で体験された臨場感に圧倒されました。わたし自身が今携わっている業務、体験している事象、また世の中の流れとは比べものにならないかもしれませんが、何年後かに振り返ったときに、胸を張って納得できるように、何事にも積極的に関心を持って取り組みたいと感じました。
- ベルリンの壁の崩壊に象徴される東欧諸国の自由化と同じ事が、自分たちとよく似た顔を持つモンゴルでも同時期に起こっていたことは、あまり知られておらず改めて驚きました。そのような時代が変わる瞬間に立ち会えたことを聞きうらやましく思いました。
- 藁谷さんの話を聞き、モンゴルに限らず何事にも興味を持つこと、そしてこだわりを持って取り組むことが後で後悔しない人生を送ることになるのだと感じました。そんな人生ってきっと楽しいですよ。

報告「3年目に入ったモンゴルボランティア

～ボランティアツアーに参加して～」

この質問の回答は9月22日開催の「オープンハウス2001」で提出いただいた同じ設問に対する回答を含みます。

- 現在のモンゴルの人々の暮らしが伺えて良かった。
- 映像によるツアーの報告だったため非常にわかりやすかった。モンゴルの人や文化や自然

を目で見ることができ良かったと思う。

- 映像が効果的でモンゴル現地の雰囲気がよくわかった。
- もう少しツアーに参加している意味を明確にしてほしかった。旅行の感想発表会の印象が強かった。
- ビデオの上映を交えての報告であったため現地の状況がよくわかり良かったと思います。また支援物資が実際どのように活用されているかを確認したり、支援金で書籍を購入し自分たちの手で寄贈したことなど今後のボランティア活動を考える上で、有意義なツアーになったと思いました。
- 里親になっている子供の内の一人が他の支援団体の力で日本に来ているのを知らなかったのはおかしいのではないか。他の誰からの援助もない子供に切り替えられないのか。
- ビデオを使った講演でツアーの様子が良く理解できた。
- 支援物資が役立っている実情を見ることが今後の活動の励みになる。
- 報告会だけで終わらず参加者の意見感想をもう少し聞きたかった。
- 豊かな生活環境に慣れている日本人にはモンゴルの生活環境へ身を置くだけでも辛いのだと感じました。ビデオの映像で見るととてもイメージが良くつかめました。今度はいろいろな催しの他にモンゴルの人々や町も映像で見たいと思いました。
- ビデオで具体的にモンゴルの人たちの生活を垣間見ることができ、現地の方たちとの交流の様子もよくわかりました。生活は大変そうですがモンゴルの人たちの表情が感じよく、説明を聞きながらビデオに集中できました。興味深かったです。
- 活動内容を知ることによって今後のユニオンに対する見方が変わりました。モンゴルの現状とボランティアの活動内容報告も兼ねて今後もこういう講演をしていただきたいです。
- 子供たちの笑顔映像を見たが素晴らしいと

思った。それと同時にまた多くの子供たちが困っているという事実悲しく思った。

- まず最初に「3年目に入ったモンゴルボランティア」とのタイトルになっているが3年目に入ってどうなったのかと言うところがよくわからなかった。
- 内容的に「ボランティア」として何をしてきたのかというところが少し薄い気がした。
- 今までモンゴルボランティアをしているとは言ってもピンとこなかったのですが、今回ビデオでその様子を見てとてもよくわかり納得できました。
- 今までよくわからなかった部分の多かった現地の実情についてビデオを使った説明というのはたいへんわかりよくて良かったです。バトフレル君の動いている姿も見ることができて。ただし内容的には歓迎レセプションとかの映像はもう少しカットしても良かったかなあと思いました。
- 毎回のことであるが、日本とモンゴルの貧富の格差について考えさせられる。日本の豊かな社会が幸せなのか物質的には豊かでなくても自然の中に生きるモンゴルの方が幸せなのかボランティアツアーの報告を拝聴するたびにいつもつくづく考えさせられることが多い。ただいつも思うのは社会体制が整って裕福であるから日本のすべてが幸せであるかというところである。日本国内にもボランティアや援助を必要としている人も多いのではと感じることもある。報告についてはツアーに参加された方々のご苦労がよく感じられる講演であり、貴重な報告である。報告者に対しては毎回敬意を表します。
- どんな小さな支援に対してもモンゴルの子供たちは喜んでくれているように感じた。この国でも子供の笑顔は素晴らしいものだと思う。たとえ前年に比べて支援が小さくなったとしても続けられると良いと思う。
- 私たちのモンゴルに対するボランティアの内容がよくわかりました。とくにみんなカンパ

金で本を購入したり、パンテックから送ったパソコンが実際に使われている様子をビデオで見ることが出来て、良い活動を行っていることの再確認が出来ました。

- 里子との交流や里子レストランの訪問は良いことであり送った物資や支援金がどのような形で子供たちに役立っているのかを見聞していくことは今後も必要であり続けてもらいたい。ただ今回だけでなく参加され報告された人たちにボランティアツアーに参加して「これが良かった」「これが今後役立つ」などの意見が少なくなってきたように思う。大切な時間とユニオン会員の大切なお金を使って行くことをもっと自覚してもらうことが必要だと思う。
- 普通の旅行記のようで目的と報告がずれているように感じた。ボランティアなのか交流旅行なのか。
- 移動日を除くと実質7日間のボランティアツアー。日数、時間的にも厳しいものがあったかも知れませんが素晴らしいことだと思います。私も学生時代に市が主催の友好使節団として姉妹都市であるオーストラリアのブリスベン市、パース市に行ったことがありますが、訪問先での多くの人との出会いや公式行事での挨拶で緊張したことなどを経験しました。今回の訪問もおそらくたいへんなことであろうと思いました。お疲れさまでした。
- モンゴルの現状とボランティアの必要性について少し理解が深まったと思います。はっきり言ってあまり興味もなく全くと言っていいほど現状を知りませんでしたので。
- モンゴルの豊かな大自然とモンゴルの人々の人なつっこい人間性を見ることが出来た。とくに厳しい社会情勢にありながら初対面の人に心底やさしくできる人間性には見習うべき点が多かった。また企業（ユニオン）の社会貢献のあり方について考えさせられた。
- モンゴルの大自然を見て何が幸せかを考えさせられた。むしろモンゴルの人がうらやまし

く思えた。それは日本と比べ便利なものはほとんど無いが精神的にゆとりがある生活をしているように思った。

- 実際にモンゴルツアーに参加されて現地の様子や里子キャンプ場等を目で見られたことをビデオで上映しながら説明されたので状況が良く伝わってきました。子供たちが寝泊まりしている施設の設備の違いも映像で見るとよくわかりました。今年でモンゴルボランティアも3年目になるとのことですが少しでも長く継続できればと思いました。
- 私が勉強不足のために感じたことだと思いますが、モンゴルの現状がどのようなものかというのが、いま一つ伝わってきませんでした。ただモンゴルの方々の歓迎、もてなしを見てたいへん温かい人間味を感じました。また子供たちの笑顔が非常に明るく見ている方まで楽しくなるような感じを受けました。
- ビデオを見ただけなので実感があまり湧きませんでした。海外の地へ赴きいろいろと体験されている話を聴くと海外へ行ったことのない私にはうらやましい感があります。
- ツアーの形式上やむを得ないと思いますが、ビデオを見ているとパンテックの参加者は「その他大勢」の印象を受けた。今後はパンテックユニオンが主体性を持って活動できるよう取り組み方を変えていく必要があると感じた。
- ビデオ上映による説明が大変わかりやすくツアーの状況が良く理解できた。これまでの活動が現地モンゴルにおいて活用されていることが目で確認でき、今回のツアー参加はもとよりこれまでの活動が有意義であることが再認識できたように思う。
- 何度も同じような報告を聴いているのできて来た。
- ビデオから感じたことは、手厚い歓迎と元気な子供たちとは対照的に人々の住むゲルやキャンプ場は決して恵まれたものではなく、生活に必要な最低限のものしかない印象を受けま

した。里子レストランも広さ、設備、環境とも恵まれた状況ではないようですが、軌道にのってほしいと思います。

- 大変有意義な活動だと思います。播磨の青年部の方々はバザーなどで大変な苦勞をされているようですが、本社の同世代の組合員もそのような活動に参加させるような仕掛けを作ればどうかと思います。大変な作業だとは思いますが得るものは大きいのでは。
- 映像を通してなので遠い国の話という感じがした。
- 今回はビデオを使用した報告会でありモンゴルという国がどのようなところなのか理解しやすかった。ただ昨年の報告会ではマンホールチルドレンなどモンゴルの厳しい実情の報告があり、今回もそのような話がもう少しあればと感じました。
- 向こうの人々の笑顔がいい表情してるなと思いました。
- 内容はとても面白く、興味を持って聞くことが出来た。もっと多くの人に報告の内容が伝えられるよう考えてほしい。
- 期待していた内容とは違い少し残念でした。モンゴルボランティアがどう活かされているのかといった生々しいレポートがあっても良かったと思う。
- これまで3回の報告は聞いているので大体理解しているつもりだったが、前回のセミナーの講師として来られたモンゴル博物館の金津館長の講演を聞いてボランティアに対する考え方が私自身少し変わったように思う。それまではボランティアに参加してモンゴルの人からいい目で見られたいという気持ちがあったが金津さんの話を聞いて自分の軽い気持ちを恥ずかしく思った。どんなボランティアをしたらいいのかわからないけど人が喜ぶだけじゃなくて自分もうれしく思うようなボランティアに参加してみたいと思う。今回のツアーに行った人をバカにする訳じゃないけど今パンテックがやっているボランティアはボラ

ンティアといえるのか疑問に思う。

モンゴルボランティアの取り組みについて ご意見をお聞かせ下さい。

この質問の回答は9月22日開催の「オープンハウス2001」で提出いただいた同じ設問に対する回答を含みます。

- 懇親会の席で執行部の方が話していた「古着などみなさんから提供された物資を送る費用が意外に高く、現金を寄付した方が効果的ではあるが、心が伝わりにくくなる。悩ましい問題だ」というのが印象に残っている。自分でも少し考えて「効果+心」を贈ることができるような方法を模索したい。
- ボランティア活動に積極的に取り組むことは非常に素晴らしいことだと思います。個人ではなく組合としてボランティア活動に参加することにより大きな力が発揮されるような気がしました。私も何らかの形で参加していきたいと思います。
- 奨学金などの援助がまんべんなくいろんな子供たちに行き渡っているのでしょうか？ 片寄った人だけになっていたら良くない気がする。
- これまでと同様、今後も出来る限りの範囲で支援していくべきだと思う。「このご時世に」という意見もあると思うが、このご時世だからこそ知恵を絞ってReuse、Recycleの観点でモンゴルに協力できればと思う。
- 支援方法、地域について今後見直す必要もあると思います。
- 支援物資などは良くやっていると思うが情報収集はどうか？と思う。
- 仕事以外の知識や経験を通して組合員の能力の向上にボランティア活動を活用していく。その活動を通して組合員相互の交流を図っていく。自分たちのために行う活動が他の人々の役に立つ活動がボランティアとして長く続

ける秘訣。地道にモンゴルと付き合っていけば良いと思います。

- 沢山の必要とされているものの中で何が一番求められているのかを現地より情報を得てタイムリーなボランティアが出来ればと思う。里親支援については支援を受けている子供とそうでない子供で差があるのが悲しく思った。広く浅くというのが良いのかはわからないがみんなが平均的に恵まれれば良いと思う。
- 私自身は有意義なことだと思いますが、「モンゴルへの派遣費用を出せるくらいなら組合費値上げをやめてほしかった」との声もこれまでに聞いたことがあります。今後とも理解を得られるよう啓蒙に努めて下さい。
- 続けたいと思います。やはり講演を聞く前と後では意見が変わると思いますが、講演を聞いたら活動内容に理解が深まりました。
- 会社全体でボランティアを行うことは意味があり、今後も続けてもらいたいです。
- 3年間の活動は一度見直す時期に来ていると思う。古着などを送るより、図書贈呈などの方が良いのでは。
- どういう支援が最良であるのかを常に考えながら継続してほしい。
- モンゴル支援については大いに賛成です。目的を持ってそれを達成するまで続けてほしいと思います。
- ボランティア活動をすることはモンゴルに限らず継続してほしいと思います。
- 社会体制が変わり貧困にあえぐ国に対して、一民間団体ができる範囲はどこまでなのか、何が真に必要なのか考えることも必要であるような気がする。日本のように社会全体が援助できる体制を持たない国に対しては援助物資を送り続けることは当面の手段としては良いのかも知れない。しかし、相手が自立することへの手助けこそが本当の援助であるかも知れないと感じる。一民間団体のみでは活動に限度があるかも知れないが「善意」か

ら「相手のための成果」へ変えていくことがこれからのボランティアではと考える。成果のために何が個人には今は考えは浮かばないが検討は必要ではないか。

- 3年目に入って支援のあり方についてユニオン内で考え少し形を変え始めているところは良いことだと思う。今後さらに検討し最も良い形を探していき実行していただきたい。
- モンゴルのボランティアが3年目に入り、私たち組合員にとっても非常によいことだと思います。とくに里親になっていることが見知らぬ土地の困っている子供たちの笑顔につながっていることを考えると自分の気持ちも温かくなってきます。これからもずっと続くことが出来るよう期待しています。
- モンゴルへの支援は今後も続けてもらいたいが、3年目に入り当初のボランティアの目的、意味がユニオン会員全体の感覚からぼやけてきているような気がする。ユニオンとしてもモンゴルの子供たちに出来るボランティアとはそもそもどういうものなのか等、再確認を行っても良い時期ではないかと感じた。
- 良いことだと思うが社内での認知度がまだまだ低いように感じる。自分も含め無関心であるような気がする。
- やはり、この報告の冒頭にもあったかと思いますが、3年目に入ったモンゴルへの支援、やはり人間共に協力しあい助け合って生きていく意味も込めて、これから先も出来る範囲でのボランティア活動は続けていくべきだと思います。
- 今後も出来る範囲で続けて行ければ良いと思います。ただしボランティアを行うことにより他がおろそかになるようであれば行く必要はないと考えます。
- 企業および組合の社会貢献の一環としてモンゴルへの支援は賛成できる。国際化が進む中で企業として貢献できることは少ないが、ボランティアは今後も継続してほしい活動の一つであると思う。

- 大変だと思えますが出来る限り継続していければ良いと思えます。モンゴルボランティアは青年部を中心に若いメンバーで行われており、実際に物資を集めるところから仕分け、バザーに出展し現金にすることを含め大変な労力だと思えますが、その作業をすることにより社内の職場の異なる同世代とのつながりや社外との交流など職場だけでは経験できない体験をすることで得るものが必ずあると思えます。またモンゴルボランティアの中心になっている若手メンバーの少しでも多くの人に現地を訪問し、自分の目で見て肌で感じる機会が出来ればと思えます。
- モンゴルについての知識がなく、どのような状況であるのかははっきり言ってよくわかっていません。そのため支援がどの程度役に立っているのか判断できません。
- 非常に素晴らしいことだと思えます。今の私たちの生活では想像に難いと思えますが世の中にはモンゴルに限らず苦境にある人が数多くいると思えます。ボランティアを行うことによりそのような人々のことを少しでも認識することは大切なことだと思えますし、会社としての社会的責任を果たす意味でも良いことであると思えます。
- 今後も継続するべきと思う。但し支援方法、内容については支援される立場をもっと考慮した上で見直しが必要ではないかと思う。
- 今後は「支援を受ける立場」に立って支援物資等の選択を行う必要があると思う。また従来のやり方を見直す転機にあたりモンゴル以外にも目を向けていきたい。
- マンホールチルドレンの件はどうなったのでしょうか。里親など地道な支援は続ける必要があるが他の展開も考えに入れるとか同じことを続けるにしても報告の仕方を工夫する必要があると考えます。
- このようなセミナーで多くの方がモンゴルへの関心を持った上で支援を継続して行ければと思えます。
- 他国への支援というのは非常に難しいことだと思う。
- これまでの報告などで見る限りは好ましいものと感じる。
- 物資を集めて送るというやり方より、今回のようにお金を持っていき本などを購入して寄贈する方法が良いと思う。不要かも知れないものまで輸送費をかけて送るより良い。
- 里子の支援体制が十分確立できていないようなので特定の里子を支援するのはやめて施設とか団体に寄付するやり方も検討すべきではないでしょうか。
- 物資を集める際には、ボランティアだから、善意だから何でも良いではなく、供給してほしいものを具体的に呼びかけた方が良くないですか。
- 日本と全く異なるモンゴルの生活実態に対して支援を行うことで少しでも手助けできていることは素晴らしいことであると感じます。話の中にコピー機を設置したいとありましたが、日本でも仕事、生活で欠かすことの出来ないものです。ぜひ次回はコピー機を支援できるように取り組んで行けたらと考えます。子供たちの学習等にも役立ててもらいたいです。
- 支援することはいいことだと思う。ただ組合の代議員とかになっていない人には実際のところ何をしているのかが本当に伝わっているのか疑問に思うときがある。人によっては「自分の会社がつぶれそうな時に他の人を助ける余裕があるのか？」という人もいる。個人的には続けていくことは良いことだと思う。
- 継続して行ってよりよいものにしてほしい。
- 支援について3年目に入り方法等は工夫されていて着実に進んでいると感じた。今後も各団体、個人とのパイプを活かして有効な支援をしていてもらいたいです。決して「援害」になってはいけないと思えます。
- 定期的に古着を収集したりモンゴルに実際に行かれて支援しているのは良いと思うがなぜ

モンゴルなのかという根本的な疑問も抱いた。私個人としては物の支援だけでなく生活環境を変えられるような支援を考えてやっていけばさらによいと思いました。

「ユニオン・オープンハウス」に対するご意見をお聞かせ下さい。

- 今まで受け身の姿勢でいて、あまり意識しなかったのが特にありません。今回のセミナーで少し見えてきたので今後考えるようにします。
- これから東京地区においても活動の場を拡げて行ってほしいです。
- 東京ではまだまだ認識が薄いと感じます。
- オープンハウスってなんですか？
- 事業部や事業所を越えた人との交流の場として続けてほしい。
- いろいろな新しい取り組みをして熱心な活動をされていると思います。今後も社員を活気づけるような活動をお願いします。
- 他事業部、他部門の組合員との交流の良い機会になっている。
- 興味があるのでできるだけ開催して下さい。
- 先日参加した「ジャンプアップセミナー」での「廃棄物問題を考える」はたいへん有意義なものでした。

あなたが持っている「パンテックユニオン」の印象や要望を教えてください。

- 今まであまり印象が無かったが、今回のセミナーで具体的にどのようなことをやっているのかを少し知ることが出来たし、身近に感じることも出来た。今後はもう少し発行物にも目を通したいと思った。
- 「播磨」を中心に活動しているイメージがあ

る。支社や支店にまで大きく展開してほしいです。

- 会社の存亡が問われるほど厳しい状況の中でこそ組合員の立場を尊重した活動をお願いしたいと思います。
- 印象は薄い。一般組合員のために頑張ってください。
- 会社と対決して行く組合活動が現実的ではない現在、組合自体の存続意義が問われている中、パンテックユニオンは組合員の能力（仕事以外の）向上を考えて新しい組合活動に挑戦している様に感じる。
- 組合員の生活を安定的に支えるためには会社の経営が同時に安定である必要があるが、会社に迎合することなく対等に意見を言える立場を維持してともに発展できるように期待する。
- 新しい取り組みがどんどん入って、組合活動の幅の広さを感じます。
- 厳しい経営環境になり、いろいろな面で影響が出つつあるようですが、出来る限り社員の生活を守ってほしいと思います。
- 執行部、常・代議員に若い人がたくさんいるので以前と比べて身近に感じるようになった。
- 気軽に相談にのって頂ける雰囲気を保ってほしい。
- 労働組合であることから堅いイメージがある。
- ユニオンのメンバーも一昔前より減ったため費用も少なく活動に制限ができて大変そうに見えます。そんな中でも交流の場をできるだけ作って下さい。
- 活発に活動している印象がある。
- 社内の人との出会いの場として、また仕事とは違う知識向上の場としてユニオンの活動に期待しています。
- 今年はユニオンの活動に参加できたので自分も組合員であることを再認識しました。